



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	米国・カナダ・韓国の大学演習林
Author(s)	秋林, 幸男
Citation	北海道大学演習林試験年報, 15, 42-45
Issue Date	1997-09
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/73248
Type	departmental bulletin paper
File Information	1996_1B-2. pdf



I B-2 米国・カナダ・韓国の大学演習林

雨龍地方演習林 秋 林 幸 男

1. は じ め に

日本では林学科、あるいは、森林科学科をもつ大学が演習林を保有している。全国的に学科の再編が終わろうとしている今、演習林の見直し、改革が進められている。

こうした中であって他国の大学演習林についての知見を広げることは無駄ではあるまい。それは日本と他国の大学演習林との共通点と相違点を確認し、改革の方向性を考える一助になると思われる。だが、他国の大学演習林の現状についての情報はさきめて少ない。ここでは、昨年、たまたまかいま見る機会があったアメリカのワシントン大学（以下、U.W.）のバック・フォレスト、カナダのブリティッシュ・コロンビア大学（以下、U.B.C.）の演習林、そして、韓国のソウル大学（以下、S.N.U.）の演習林について紹介しよう。

2. バック・フォレスト（U.W.）

ワシントン準州は1865年に二つの準州大学を設置したが、1868年に一つの大学に統合し、シアトルのダウンタウンに移して1871年に開学した。この間、ワシントン準州は連邦に42番目の州として加盟し、U.W.はランド・グラント・ユニヴァシティになったと思われる。1891年に州議会は現在のワシントン湖とユニオン湖の間の441エーカーの土地に大学を移すことを計画し、1985年から現在のキャンパスでの大学教育を開始している。U.W.での林学教育は1894-1895年から始まり、1907年に最初の森林資源科大学長が任命されて、大学院教育が開始されている。森林資源科大学の施設は三つの建物からなり、その本部はアンダーソン・ホールと呼ばれる建物におかれている。それは1925年にアグネス・ヘアリー・アンダーソンからの25万ドルの寄付によって建設された。その二年前の1923年に製材業者であるチャールズ・L・バックの寄付によって、森林資源科大学の演習林となるバック・フォレストの土地の購入が開始されている。

チャールズ・L・バックの目的は森林経営の実演による社会教育であり、バック・フォレストは二つの使命を持っていた。一つは森林経営の実演による社会教育、学生教育、二つは、研究であり、現在では大学内での教育目的の会議施設として運営されている。創設当初は334エーカーであったが、その後の土地の交換や購入によって現在では4,300エーカーに拡大されている。購入した土地は伐採跡地とオールドグロウスの森林からなり、1960年代までは大学の資金を投入して造林を行ってきたが、それ以降は独立採算制に移行している。バック・フォレストの運営の方針はその包括的経営発展計画に基づき、森林資源科大学長によって任命された大学の土地政策委員会によって管理されている。研究はプロジェクト方式で森林資源科大学の研究者や大学院生が遂行し、他の研究機関や政府機関によって金銭的な支援を受けている。演習林の管理、教育・研究組織はカレッジ・ランド・マネージャーのもとに教育・研究担当3名（内2名は大学新卒者で2年期限の雇用）、セクレタリー1名、技術者6名で編成されている。

U.W.の演習林はたまたま大学の所有であったが、アメリカの大学演習林の多くは連邦有林、州有林に設定され、借地によるものが多いように思われる。その最大のものはウィスコンシン州立大学の演習林で54,633haといわれている。

だが、アメリカの大学演習林の全体像は情報が少なくてわからない。

3. U.B.C.の演習林

U.B.C.は、1907年の「大学基本財産法」(University Endowment Act)によって創設の資金的基礎が与えられた。同法はブリティッシュ・コロンビア州の中部と北部の「王室御領地」(crown land)の200万エーカーまでの土地の売却によって財源を確保することを大学に認めた。そうした意味ではアメリカのland-grant universityに対してcrown-grant universityといえる。1908年に州議会は「大学法」(University Act)を成立させて大学の設置を決定し、現在、キャンパスがおかれているバンクーバーと隣接したポイント・グレーの175エーカーが大学の敷地として1910年に選定され、1915年にバンクーバーで“芸術と科学”部、応用科学部、そして、農学部との3学部体制でU.B.C.は開学した。1920年に「大学基本財産法」が改正されて、内陸部のクラウン・ランドにかわってポイント・グレーに隣接する3,000エーカーが附与されている。そして1925年に現在のキャンパスに移転している。

U.B.C.での林学部の創設は1951年と比較的新しいが、林学の教育はそれ以前から行われていた。それに触れる前にカナダの林学教育についてみると、1907年にトロント大学に林学部を創設したことからはじまり、1908年にはニュー・ブルンスウィック大学に林学講座が創設された。1910年にラヴァール大学に林学の大学院大学が設置されている。U.B.C.での林学教育は1918年から「林学速成科(秋林訳)」(short course of forestry)から始まり、1920年に林学科が、1949年に博士課程が、その翌年に林学部が創設されている。

U.B.C.の林学部はマックミラン・ホールに農学部といっしょに入っているが、現在、林学部の独立した建物を建設中である。林学部は森林資源管理学科、森林科学科、木材科学科の3学科からなり、教官48名、職員55名、研究員8名、ポスドク研究員14名、名誉研究員3名、補助教授(adjunct professors)41名、名誉講師3名から編成されている。学部の運営予算は1980年代前半では2百万から3百万カナダドルであったが、80年代後半から膨張し、現在は5百万カナダドルに達している。研究の外部資金は80年代前半では運営予算の半分程度であったが、80年代後半から運営予算に匹敵している。その財源は、連邦政府が52%、州政府が21%、企業などの私的資金が27%であり、ブリティッシュ・コロンビア州政府の財政事情の悪化のために州政府からの資金が減少し、連邦政府の資金の比重が増している。

U.B.C.の林学部が演習林として利用している土地は現在3箇所であり、その一つはポイント・グレーの大学キャンパスで、演習林としてはマルコーム・ナップ演習林とアレックス・フレーザー演習林の二つがある。マルコーム・ナップ演習林は5,157haであり、バンクーヴァーから車で一時間半ほど離れたコースト山脈のふもとにあり、1949年に創設され、50年間の気象データと30年間の沢の水質と流量のデータを集積している。創設以来、700以上の研究プロジェクトがU.B.C.の研究者、私的グループ、連邦および州政府によって遂行されてきている。毎年、U.B.C.の学生を対象に林業経営問題を中心とした3週間の野外実習とともに希望者を対象とした広い範囲のショート・コースの教育を提供している。アレックス・フレーザー演習林は内陸部のカリブー地域の研究の必要性を認識した地域住民の提唱によって1987年にクラウン・ランドに創設された演習林であり、マルコーム・ナップ演習林を補完するものとして位置づけられている。演習林の創設以来、毎年15のプロジェクトが着手され、研究課題の範囲は広いが、とくに黒尾鹿、根腐れ病、昆虫、小動物の研究が際立っている。また、毎年U.B.C.の3年生を対象に1週間の野外実習のほかにはショート・コースの実習教育、社会人を対象とする専門教育、林業労働者研修を行っている。

4. 韓国の大学演習林

① 日本の大学演習林跡地

戦前期の日本の国立大学（東大、京大、九大、北大）が樺太、台湾とともに朝鮮半島に演習林を保有していた事は知られている。韓国の地形は東寄りを南北に走る大きな山脈とそれから西方に派生している支脈によってかたどられ、東大、京大、九大の演習林は南端の支脈にあるチリ山を囲んで設置されていた。北大演習林はチリ山から離れた支脈に設定されていた。終戦とともに日本の国立大学の演習林は韓国政府に接収されて国有林となったが、東大演習林の跡地だけが S.N.U. の演習林となっている。こうした日本の国立大学演習林の跡地は朝鮮動乱のために森林・施設が戦火の被害を受け、資料はほとんど焼失している。チリ山一帯は国立公園になっている。旧北大演習林の跡地はスキーが可能な降雪地帯の最南端に位置し、現在、大規模なスキー場開発が進行中である。

② 韓国の国立大学の演習林

韓国の国立大学演習林の創設年度、保有規模、教官数、職員数を示したのが表－1である。こ

表－1 韓国の大学演習林の保有規模と創設年度

	創設年度	林学教官	面 積	演習林教官	職員
ソウル大学	'09	13	17,300	2	39
慶 尚大学	'48	12	4 500	2	3
江 原大学	'47	8	3 000	1	4
忠 北大学	'51	8	2 400	1	6
全 北大学	'51	9	2,100	2	6
全 南大学	'50	5	2,100	3	8
忠 南大学	'75	6	215	-	1

れでみるように韓国の国立大学は農学部についてみれば李王朝時代に創設された高等教育機関の系譜を引く S.N.U. と戦後の農林専門学校の系譜を引き、アメリカの指導のもとに総合大学として創設された他の国立大学からなっている。そして、両者の間には教育・研究資源（教官と職員数、教育施設）の大きな格差が存在する。演習林の保有規模についてみれば、S.N.U. は戦前からの演習林を引き継ぐとともに戦後に国有林となっていた東大演習林の跡地を演習林として所管替えをうけて大学の所有地としての演習林は約17千 ha に達している。他の国立大学では演習林の創設年度はすべて第二次世界大戦以降であり、その保有規模も4,500ha から2,100ha の間にすぎない。しかもそれらのほとんどは大学の所有ではなく、1950年度以来、山林庁所管の国有林を5年または10年単位よりの無償で借りた土地（使用許可）である。だが、1990年7月14日の大統領令による山林法施行令の改正によって大学演習林としての無償貸付あるいは無償使用許可は更新期間を5年以内とし、5年を越えて大学演習林として利用するためには1年間に地価の5/100を納入することが必要となった。この間の国立大学附属演習林協議会、全国林学教授会、全国国立・公立大学校総長会議などの要請の結果、1994年3月2日の大統領令によって山林法施行令が再び改正され、従来のように無償貸付あるいは使用許可によって演習林としての利用が可能になっている（「資料 韓国の大学演習林貸付について」慶尚大学校農科大学演習林研究報告 第4号1994年）。

③ S.N.U. の演習林

S.N.U. の農学・応用生命大学の前身は李王朝によって1904年にソウル市内に創設された農・商・工業学校の農学科にさかのぼる。その後、農学科は農商務省が管轄する農林学校として分離

されて1907年に農林学校は水原（スラン）に移されて韓国の最初の農林専門学校となった。1910年の日韓併合とともに農業試験場が設置されてその附属の農林専門学校へと変えられた。朝鮮総督府の教育局の所管に移された1918年には水原高等農林学校になった。1945年に日本の朝鮮支配が終わるとともにキョンサン大学を中心に水原高等農林学校をはじめとする12の高等専門学校を統合してS.N.U.を創設し、水原高等農林学校はS.N.U.の農科大学となった。1950年の朝鮮動乱によって大学の施設が破壊され、物質的・人的資源が大きな影響を受けた。1954年から1962年までのアメリカの経済・技術援助、特に、S.N.U.—ミネソタ大学技術協力計画によって、農科大学の教官の大部分がミネソタ大学に派遣されて再教育を受けるとともに、S.N.U.の研究・教育施設が再建された。1992年に農科大学の名称は農学・生命科学大学へと変更されている。

S.N.U.の演習林は水原演習林、七富山演習林、中部演習林、南部演習林からなっている。水原演習林は1913年に53haで創設され、S.N.U.の最初の演習林で、水原キャンパスの一部となっており、実験苗畑や樹木園として利用されている。水原キャンパスには演習林本部が置かれ、演習林長（林学科教授の兼務）、研究部長（演習林教授）、職員2名が配置されている。

七富山演習林はキャンパスから3 km離れた同じ水原市内に位置し、1928年に66haで設置され、現在の面積は110haになっている。荒地地であったために緑化砂防造林地を造成するとともに、混植、密度試験、造景樹や都市環境緑化樹種の養苗技術の開発を研究課題とし、S.N.U.の造景用樹木の供給と苗木の販売を行っている。中部演習林は水原キャンパスから約40kmに位置してその面積は1,100haであり、終戦直後の1945年に創設された冠岳山演習林を1979年に現在の中中部演習林と交換して創設された。この演習林には職員2名を配置して多目的経営研究林として運営され、広葉樹天然林（497ha）では高品質木材生産と自然環境の保全、針葉樹人工林では間伐などの育林技術開発を試験課題している。

南部演習林はかつて光陽演習林と呼ばれていたが、1979年に南部演習林に名称を変更した。中部演習林や南部演習林への名称の変更は、将来、S.N.U.が38度線以北に北部演習林の設定を希望していることを表している。南部演習林は戦前の東大演習林跡地国有林を1946年に借り受けて演習林を設定し、1958年には国有林から管理替えされ、現在の面積は16,218haである。南部演習林の運営・管理組織は、同演習林長のもとに森林の管理・保護、森林施業を担当する管理課と試験研究の設計と遂行、森林資源調査と営林計画の編成を担当する試験研究室とがおかれ、現場施設として苗圃、温室、樹木観察園、淡水魚場、山林水文観測試験場をもち（1991年観測開始）、造林試験や林道の造成、演習林総合実習を担当し、100名の宿泊が可能な秋山試験場と山林資源の保護・管理と現場試験の実行を担当する六つの管理所がおかれ、教官1名と職員22名が配置されている。同演習林は白雲山地区演習林（11,000ha）と智異山地区演習林（5,200ha）の二つに分けられる。白雲山地区演習林の一部は1993年に白雲山自然生態系保護地域に指定され、森林資源の開発と保全の調和を目指す山林資源・自然環境研究をテーマとして運営している。智異山地区演習林は1967年に設定された韓国では最初の国立公園の一部をなし、自然生態系保全の研究を中心に運営されている。

5. お わ り に

アメリカのU.W.、カナダのU.B.C.、そして韓国のS.N.U.の演習林について紹介した。

だが、アメリカ・カナダの大学演習林の全体像を知る情報が不足であり、特に、アメリカ大陸の東海岸やカナダのフランス語圏の大学演習林については全く情報をもっていない。今後、国際交流が深まるとともに情報が集まることを期待したい。